# 第５学年西組　社会科学習指導案

学習指導者　出濱　大資

１　単元　「捨てる国日本を変えるのはだれだ！？　－これからの食料生産とわたしたち－」

２　単元について

（１）育成したい「思考力」と学びに熱中する子どもの姿

【育成したい「思考力」】

食料の輸入・生産から消費・廃棄までの流れについて調べ，時間的・空間的視野や立場を広げて得た事実を関係づけることで，食料確保の意味を捉え，食の流れについての解釈を再構成する力

食料の輸入量と廃棄量のアンバランスさから食料確保が適正に行われているか興味を持ち，それについて生産者・販売者・消費者の関わりについて話し合いながら，食料の流れを生産から廃棄の一方向だけでなく思いや願いを逆方向からも追究していく。

【学びに熱中する子どもの姿】

近年，輸入食料の買い負けや国内生産量の低下など，日本の食料確保が不安定になりつつある。一方，豊かな消費生活は大量の食料廃棄を生み，国内の大きな問題になっている。そこで，この二つの問題をつなげ，食料確保についての理解をより深めることができるよう生産から消費までの流れを調べていく。これらを調べる中で，空間的視野を広げて，食料が世界中から輸入されている様子と自分たちの食生活を関係づけて，国内の生産で不足している品目が輸入で補われていることを捉えたり，時間的視野を広げて，輸入量の増加と店舗の販売形態の変化を関係づけて輸入によって多種・多様な食料が手に入るようになったことを捉えたりしていく。また，これら確保に関わる生産者・販売者の働きや願いと消費者の生活を関係づけて多くの人の働きが自分たちの生活を支えていることに気付いていく。このような学習を積み上げていくことで，私たちが生活をしていくために必要な食料が輸入・生産・販売の働きによって多様かつ安定的に供給されていることを捉えていくのである。そして，生産者から消費者へと食料の流れを考えていた子どもが，「なぜ，廃棄が出るのか」と廃棄を視点にして消費者側から捉え直すことで，「商品を売買する」という経済的な考えが加わり，消費者の需要に応じた食の流れへと解釈を再構成していくと考える。

日本が国内生産でまかないきれない食料を輸入に頼っているにも関わらず大量の食料を廃棄していることに疑問を持った子どもたちは，私たちの生活の根本である食の流れに興味をもつだろう。そして，私たち消費者の元に食料が届くまでには，販売者・生産者・輸入業者など様々な立場の人々がいることに気付き，それらの人々がどのような思いや願いをもち，食料を確保しその食料を廃棄しているのか考えていく。例えば，「消費者が求めているから，廃棄の可能性があっても，いろいろな種類のお弁当をおいているんだ」「お店の人も，消費者に来てもらうためだからしょうがないのか」「でも，本当にしょうがないのかな。消費者も満足して廃棄の出ない方法はないのかな」などと話し合うことで，消費者の願いに応えるために生産や商業活動を行っていることを捉えていく。そして，「これからも今のような食生活を守っていくにはどうすればいいのだろう」等と今後の食の流れの在るべき姿を追究していくのである。このような姿が本単元で設定する熱中する姿である。

（２）新たな問題を共有する場を位置づけた単元構成について

事前の質問紙調査から，本学級の児童35名の内，食料問題に対する関心が低い児童が７名いることが明らかになった。その理由として，課題解決的な学習そのものに関心が低く，問いを追及する意欲が低いことが考えられた。そこで，子どもの既有の知識や経験とのずれを引き出し，驚きや困惑をもって社会的事象に出会わせることで課題解決への意欲を高める単元構成を行う。まず，１時間目には食料がどのように確保されているかを予想し，輸入が多いという実態を理解する。さらに２時間目に，日本では

大量に食料が廃棄されているという事実を提示することで，子どもたちは，驚きとともに「これだけ輸入している日本が，どうしてこんなに廃棄しているのだろう」「食料廃棄の無駄を減らせば，輸入が減るかもしれないのに」と単元を通して，追究すべき課題を自然と見出していく。このようにして，子どもの認識のずれを感じさせることで関心度を高め，課題を追究する子どもを育てていく。この課題を追究していく際に，食料廃棄の原因やそれを減らす取り組みについて調べていく。それらの断片的な知識が再構成され全体像が見えた時，子どもたちは今後の食料確保の不安定さに気付き，「今のままで大丈夫なのだろうか」といった新たな問題を共有し追究していく。

**（３）単元計画と学習意欲への働きかけ**（総時数　６時間）

| 次 | 主な子どもの意識および学習の流れ | 学習意欲への働きかけ |
|---|---|---|
| 第一次 | **①　私たちの食べ物はどのように確保されているのだろう**<br>自給率の実態を知り，日本は食料を確保するのに輸入に依存しているという課題があることを知る。<br>**②　どうすれば，日本の食料を確保することができるのだろう**<br>異常気象の影響があるなど輸入は不安定であることや高齢化が進む一次産業では，生産量の向上が難しいことをまとめる。さらに大量の食料廃棄を行っている実情を知り，「これだけ輸入している日本が，どうしてこんなに廃棄しているのだろう」などと学習課題を共有化する。 | **③～⑥ 関・自【食料確保シート】**<br>食料の流れ図を補助黒板に掲示しておき，授業の終末に学習したことを書き加えていくことで，学習していることの位置づけが全体のどの部分に当たるか理解できるようにする。 |
| 第二次 | **③　どうして，こんなに廃棄しているのだろう**<br>生産者から販売者を経て消費者へ届き消費されていくという食料の流れを図にまとめ，全体像を捉える。さらに，その図に廃棄の実態を書き入れ，どこで・どのように捨てられているかを把握する。<br>**④　食料廃棄を減らすために，どんな取り組みをしているのだろう**<br>コンビニ・スーパー・回転寿司等に着目して廃棄の実態と取り組みを調べ，データ管理による廃棄食料の削減や廃棄食料を飼料化・肥料化し，食品リサイクルが行われていることを知る。廃棄食料から作られた肥料が生産者に提供されることで，販売者も生産性の向上に協力していることに気づく。リサイクル率が上がる一方で，廃棄の総量が増えている事実を知り，「なぜ，廃棄が減らないのだろう」という課題を共有する。<br>**⑤　なぜ，廃棄は減らないのだろう**<br>**本時５／６**<br>食料が廃棄されている理由について考え，消費者の様々な願いが生産にもつながっていくことに気付いていく。さらに，販売者・生産者へと立場を広げそれぞれの願いを満たすために廃棄が行われていることを理解し，食の流れの全体像を捉えていく。そして，「今のままで大丈夫なのか」という新たな問題を取り上げ，共有させる。 | **③～④ 関**<br>**【食料廃棄を減らす取り組み】**<br>食料廃棄物の取り組みを生産者・販売者に分けて掲示することで，それぞれの取り組みを相互に比較でき，異動に気付けるようにする。<br>**①～⑥ 自【話し合いの約束】**<br>自力解決の途中で小グループで交流する場面を位置づけ，自信のある児童から順番に意見交換をする。そこで，司会が発言していない児童の意見を聞くことで，考えを確認する場を保証し自信をもてるようにする。 |
| 第三次 | **⑥　これからも今のように食べていくにはどうすればいいのだろう**<br>輸入や国内生産の現状を知り，食料確保の課題を解決するために，食料の流れ図を見直しながら，これからの食の在り方について話し合う。<br>＜評＞食の流れの中で生産者・販売者・消費者がそれぞれが双方向でつながり，互いに関係があることについて理解している。 | **振り返り**<br>**①～⑥ 振【明日へのはてな】**<br>授業中に分かったことと疑問についてノートに記述して交流することで，次の課題設定につながる問いがもちやすくなったり，精選されたりする。 |

## ３　本時の学習指導

### （１）目　標

食料廃棄の原因を考える活動を通して，輸入・生産者・販売者・消費者のつながりを関係付けながら消費者の需要に応じた食の流れについて再構成することができる。

### （２）学習指導過程

| 学　習　活　動 | 子　ど　も　の　意　識 |
|---|---|
| １　前時を振り返り，学習課題を確認する。 | 販売者・生産者・消費者はそれぞれ食料廃棄を減らす取り組みをしていたけれど，廃棄量はなかなか減っていないよ。 |
| **なぜ，食料廃棄の量は減らないのだろう** | |
| ２　食の流れ図を見直しながら，食料廃棄が減らない理由を考える。<br>（１）個人で考える。<br>関・自【食料確保シート】 | 食料廃棄が減らない原因はどこにあるのだろう。<br>生産者かな：形の悪い物は販売者が買わないからだ。<br>販売者かな：売れ残るほどたくさんの商品を店に並べるからだ。回転寿司のように，古くなった商品をすぐ捨ててしまうことも原因だと思うよ。<br>消費者かな：好き嫌いがあって，食べ残しがたくさん増えたからだ。 |
| （２）全体で交流する。 | 販売者の問題は，売り方を変えて，商品の数や種類を減らせば，売り切れて廃棄の問題が解決できそうだよ。 |
| （３）消費者の願いについて，グループで話し合う。<br>自【話し合いの約束】 | でも，本当に売り方を変えても大丈夫なのかな。<br>消費者の立場で考えると，新鮮・品揃え・おいしさ・見た目・値段などが気になるから，それを満たしてないと売れないよ。<br>販売者は，消費者の願いを叶える商品を出していたんだ。それで廃棄をやめることが難しかったんだ。 |
| （４）生産者・販売者の願いについて，全体で話し合う。 | 生産者にも，消費者の願いが廃棄を生んでいることはないかな。<br>生産では，獲る時に傷がついた魚や大きさのそろわない魚も捨てられていた。これも見た目や品揃えとつながるよ。<br>生産者の食料廃棄でも，消費者の願いが関係していたんだね。<br>でも，消費者の願いだけが廃棄の原因なのかな。<br>生産者や販売者だって商品を売りたいという願いがあるよ。<br>生産者・販売者・消費者がそれぞれに願いをかなえることで出ていた廃棄だったんだね。 |
| ３　学習のまとめを行い，食料確保シートに学習したことを位置付ける。<br>関・自【食料確保シート】 | 食料が廃棄される仕組みが見えてきたよ。<br>食料確保シートの中に，消費者・販売者・生産者を矢印でつないでそれぞれの願いを書いたらいいね。<br>食の流れの全体の様子に願いが加わったね。 |
| ４　振り返りをして，本時の学びと新たな課題を共有する。<br>振【明日へのはてな】 | でも，この仕組みではたくさんの廃棄が出続けてしまう。<br>これからも今のように食べていくためには，どうすればいいのだろう。 |

（３）本時の詳細

前時までの子どもの意識　学習活動１

前時には，販売者が廃棄される食料を肥料にして生産者に提供するという食料リサイクルループの仕組みなど，食料廃棄を生かす取り組みを学習している。そこで，「廃棄される食料がリサイクルされているので，これからよくなっているはずだ」という考えをもったのだが，終末に廃棄量の総量が減少していないことを知り，「せっかくこれだけの取り組みをしているのに，なぜ，食料廃棄の量は減らないのか」といった問題を抱いている。その前時までの子どもの意識から，「なぜ，食料廃棄は減らないのか？」のような学習問題がつくられることが考えられる。

学習活動２

これまでの学習の経緯から，子どもたちは，食料廃棄が出る原因を考える時に，既習や経験を参考にしていだろう。その際に，食料確保シートや廃棄を減らす取り組みを参考にしながら考えを作っていく。そうすることで，自分が消費者・販売者・生産者のどの立場で考えを作っているのか明確になり，全体像を捉えやすくなる。自・関**【食料確保シート】**そして，販売の様子や食品の流れを振り返りながら，「コンビニの弁当は，いつもたくさん並んでいる。必要以上に並べているから廃棄が減らないのだろう」などと考えていく。それらを全体で交流する際に，販売者の食料廃棄には「いろいろな種類を並べてほしい」という消費者の願いが関係していることに気付く。そして，他にも消費者の願いが販売の様子に影響していないか班で話し合う際に，自信のある子どもから意見を交流する。そして，自分の考えが持てた段階で自信のない子に発言を促していく。そうすることで，自信のない子どもは友だちの意見を参考することによって自分なりの考えをもつことができると考える。自**【話し合いの約束】**次に，消費者の影響は生産者の廃棄に影響していないかと立場を広げて考えていく。そうすると「傷ついている魚が廃棄されているのは，見た目を大切にしたい消費者の願いを叶えているのだ」など関係を見つけていく。消費者の願いが食料廃棄に影響を与えていた事に気付いた段階で，立場を変え，販売者・生産者の立場で学習してきたことを見直していく。すると，「商品を売りたい」という願いから廃棄を覚悟の上で商業活動を行っていることに気付いていく。

**【食料確保シート】**

学習活動３

学習活動２で，消費者・販売者・生産者それぞれの願いが食料廃棄に影響を与えていたことに気付いた子どもたちは，食の流れの全体像を捉え直しているだろう。そこで，解釈したことを整理するために，食の流れ図に矢印や言葉を書き込んでいく。表現物にまとめることで，感覚的に捉えていたことが言葉や図によって明確に概念化され子ども達が認識を深めていく。自・関**【食料確保シート】**

学習活動４

本時，子どもたちは，上記のように食の流れを再構成し確保された食料が消費されていくまでの流れを捉え直している。そこで，食料廃棄が減りそうにない実情に気付き，これからの仕組みについて考えようとするだろう。それらを明日へのはてなに書き，共有することで「これからも今のように食べていくためには，どうすればいいのだろう」と次時へつないでいく。振**【明日へのはてな】**。

（４）総括的評価

生産者・販売者・消費者の願いが食料廃棄につながっていることを捉え，食の流れついて解釈を再構成している。

＜例＞消費者が新鮮な食べ物をほしがっているから，古い食べ物がどんどん捨てられて新しい食べ物をお店に並べているんだ。　【方法：発言，ノート】